

# 天皇杯・農林水産大臣賞

しらいとだいいちじ ちしんこうかい (熊本県山都町)

## 「棚田」も「心」も潤して ～ 167年守り続けた通潤魂、未来へ～

### 1. 地区の概要

山都町は九州のほぼ中央にあたるため「九州のへそ」の町と呼ばれ、日本最大級の石造りアーチ水路橋「通潤橋」があることでも知られる。本振興会のある白糸台地全域が国の重要文化的景観に選定されており、台地上には良質な湧水が引き込まれ、米や茶を中心に栽培が行われ、また、全国でも有機農業に早くから取り組まれてきた地域である。

### 2. 団体の概要

関係9集落からなる振興会は平成18年に設立され、10の部会がそれぞれ自治活動等を行いつつ、イベント開催や土地改良区と協力した通潤用水の保全活動を実施。また、棚田米の生産販売に取り組む通潤橋水ものがたりの会と一体となって活動。

### 3. 団体の取組み

- 棚田管理と収益向上を目的として、米の厳格な統一出荷基準を設け講習会による栽培技術の向上と品質の均一化に取り組む。また、通潤橋水ものがたりの会を設立しブランディングを進め、特別栽培米を扱う関西の卸販売業者や百貨店での評価を得る迄に至る。ふるさと納税返礼品としても取り扱われ、地域生産者の収益増加、地域農業の振興に著しく寄与。
- 食や地域づくりに関する知見向上のための勉強会や地域ビジョン作成のワークショップを重ね、通潤用水に感謝し美しい白糸台地の景観を守りたいという共通認識が住民の意識と地域力を高める。また、女性部の役員が中心となり、自費出版した絵本「通潤橋 水が渡る橋」が全国の小学校の道徳教科書に採用されるなど、子供たちや次の世代に地域の歴史や文化を伝える取組みにも意欲的である。
- 全国棚田サミットの地元開催が初の実践例となり、これを機に都市と農村の交流活動も加速。毎年地域内外から100名以上が参加する「棚田ウォーキングと収穫感謝祭」を企画運営し、青年部がガイド役となり通潤用水の成り立ちと構造、鳥獣害被害と電気柵の対策などの説明を担う。
- 熊本地震後、棚田復興プロジェクトを立ち上げるとともに、企業のCSR活動との連携にいち早く取り組み、多くの都市住民とボランティア活動を通して交流活動を継続。



「通潤橋水ものがたり」(棚田米)



棚田ウォーキングと収穫感謝祭



CSR活動の一環で里山維持に2千本を植樹